

・センニンモ *Potamogeton maackianus*

センニンモは、東アジアに生育するヒルムシロ属の多年草で、湖沼、溜池、河川、水路など、さまざまな環境で見られます。同属のヤナギモ *P. oxyphyllus* と似ていますが、ヤナギモより葉が小ぶりです。大阪府レッドリストでは準絶滅危惧です。

なお、ヒルムシロ属の水草を水槽で育てると、涼やかな雰囲気が出てきれいなのですが、水槽の環境への馴化が難しい印象があります。



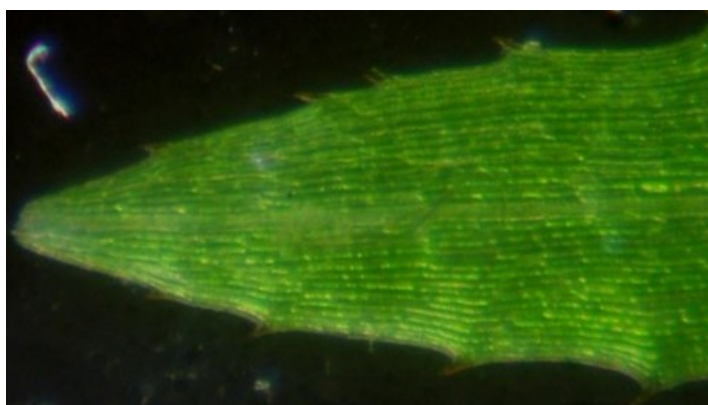
▲センニンモ



▲クロモ

・クロモ *Hydrilla verticillata*

クロモは、湖沼、溜池、河川、水路にみられる多年草で、クロモ 1 種でクロモ属を構成します。アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリアに分布しており、琵琶湖で最も多くみられる水草です（芦谷・角野監修 2018: 244）。淀川左岸幹線水路でも多く見られます。見た目は外来種のおオカナダモ *Egeria densa* や、同じく外来種のコカナダモ *Elodea nuttallii* とよく似ていますが、クロモは葉に鋸歯（ギザギザ）があることで区別できます。



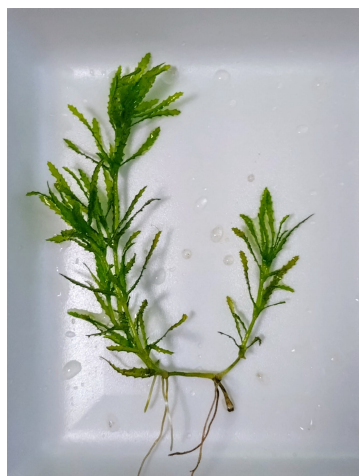
▲クロモの鋸歯（松岡 online）

・イバラモ *Najas marina*

イバラモは、世界中の熱帯～温帯域に広く分布するイバラモ属の一年草で、湖沼や溜池で見られます。草体は固いですが折れやすいので、扱いには注意が必要です。その名の通り、草体全体に鋭い鋸歯が付いていて、下手に触るとかなり痛いです。

イバラモは、大阪府レッドリストでは絶滅種とされていますが、琵琶湖では普通に見られます。イバラモは、『琵琶湖・淀川水系』と一括りにできない『何か』がある」と思わせてくれる水草です。

水槽での育成については、採取したものを水槽に入れば、元気よく育ってくれます。ただ、トリミングや植え替えに弱く、長期維持は難しい印象があります。



▲イバラモ



▲オオトリゲモ



▲ムサシモ

・オオトリゲモ *Najas oguraensis*

オオトリゲモは、日本と中国に分布する、イバラモ属の一年草です。中栄養～やや富栄養な溜池や湖